建物概要案内図

建設地：富山県富山市五福3190（富山大学五福キャンパス）
建築面積：北館　1,839.12 ㎡
延床面積：北館　4,557.00 ㎡
改修面積：北館　2,617.51 ㎡
階　　数：地上３階
構　　造：鉄筋コンクリート造

基本設計：富山大学財務施設部施設企画課施設計画チーム
実施設計：(株)HTAデザイン事務所（建築）
　　(株)新日本設備計画（設備）
工事監理：富山大学財務施設部施設企画課施設計画チーム

施　　工：東武建設(株)　　（建築工事）
（Ⅰ期）：成瀬電気工事(株)（電気設備工事）
　　：河崎設備工業(株)（機械設備工事）
工　　期：（Ⅰ期）令和 7年 8月～令和 8年 3月
　　（Ⅱ期）令和 8年 5月～令和 9年 2月

施　　工：未定
（Ⅱ期）

キャンパス案内

富山大学五福キャンパス



Copyright(c)2005-2007
UNIVERSITY OF TOYAMA, ALL Rights Reserved.
五福キャンパス　案内図



五福キャンパス　配置図

富山大学中央図書館改修

University of Toyama Central Library Renovation


内観イメージ

富山大学
2025.7

整備概要

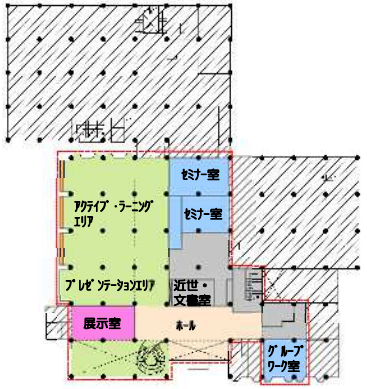
新たな交流拠点への改修

本学のキャンパスマスタープランに定められている、社会に開かれた多様で魅力的な交流機会を提供するための拠点が、現状学内にはなく、中央図書館における拠点設置を検討している。しかし、52年前に設計された中央図書館で実現するには機能的制約があり困難である。本事業によりその制約を撤廃し、「知識交流館」に進化させる。本改修により安全安心の確保および施設設備の省エネルギー化を図るとともに、改修により創出する共創拠点において、書架の低層化で生み出される全壁面および天井スペースを有効活用し、多様な人・知識・アイデアが相互に出会える画期的な空間化を実現する。同時に、全キャンパス9学部をDX化により横断させる、教育研究のハブの構築を図り、リフッレシュエリアでは、人々が集まる憩いの場の創出を図る。
さらに、至宝の小泉八雲の蔵書「ヘルン文庫」を常設公開するスペースを創出し、文化継承および歴史研究体制の持続・発展と地方創生に貢献する。

空間計画 1

利用形態に合わせた空間の整備

１階知の交流エリアは静的な空間とし、低書架の配置と既存柱を利用した円形テーブルを配している。円形テーブル上にはカーテン生地を利用したシェードを設置することで、緩やかに区切られた利用しやすい空間としている。
２階アクティブラーニングエリア/プレゼンテーションエリアは動的な空間とし、仕切りの無い大空間として整備している。一部天井に楕円形のルーバー天井を設置し、大人数がこの天井の下で交流するこの部屋にふさわしいデザインとしている。

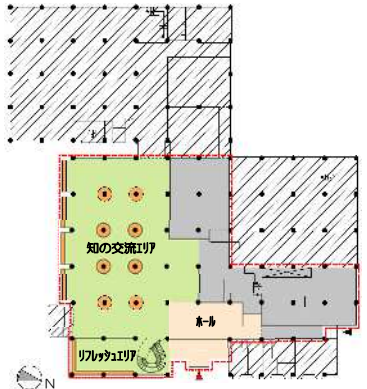


：Ⅱ期範囲

2F（Ⅱ期）　（改修）　1,062.74㎡



２階 アクティブ・ラーニングエリア/プレゼンテーションエリア



：Ⅰ期範囲

1F（Ⅰ期）　（改修）　1,266.75㎡

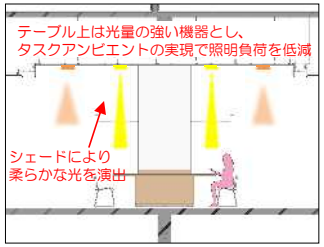


１階 知の交流エリア

省エネ計画

環境に配慮をした設計

環境配慮の取組み
- 内断熱材吹付
（厚さ40mm　硬質発泡ウレタン吹付）
- 複層断熱ガラス（熱貫流率：1.6W／㎡·k）
※単板ガラス（熱貫流率：6.0W／㎡·k）
- 人感センサー照明制御
- ＬＥＤ照明
- 窓側明るさ連続調光制御
- タスクアンビエント照明の採用



空間計画 2

人々が集まる憩いの場の創出

リフレッシュエリアは窓際に木の温かみを感じるルーバーとベンチを設置している。ルーバーは東日を遮蔽し、ベンチに吹き出し口を設けることで、学生がくつろげる拠点整備を行った。また、窓の外はキャンパス中心部を望むことができるため、下部はルーバーで視線を通し、上部はカーテンでより効率的な日射遮蔽としている。



１階 リフレッシュエリア

空間計画 3

ヘルン文庫常設展示スペースの整備

常設展示室は、南館のヘルン文庫に所蔵している一部の資料やラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の功績等を紹介する空間であり、外光を抑えながらも他の空間とのつながりを持ち、落ち着きのある展示室としている。



2階 展示室